様式第３号（第６条関係）別紙

議員特別研修実施報告書

報告議員名	土田 百合子	報告日	１０月２６日
調査研究・研修等名　　称	人口減少・少子化に備える地方の施策		
実　施　日	５月１９日(火)		
会　　場	紙資料及び動画にて受講		
調査研究・研修等の概　　要	本講義は、自治体の財政状況と人口動態の基礎から、ＤＸによる業務改善、人口データの使い方、自然増減・社会増減の分析、将来推計人口と高齢化がもたらす課題、ＲＥＳＡＳを用いた具体事例分析、総合戦略・人口ビジョン・ＫＰＩの設計と運用上の問題までを一貫して解説している。自治体ごとに事情が大きく異なるため、成功事例の模倣ではなく、自、自治体の特性を正確に把握し、根拠あるデータに基づく施策設計が不可欠であることを強調している。		
調査研究・研修等の成果と感想	①「あなたの街のデータで確認する人口減少と国の施策」 ・あなたの街の人口減少の実態を知る ・これから人口減少すると何が困るのか ・まち・ひと・しごと創生総合戦略とは何だったのか ・デジタル田園都市国家構想とは ②「これから地方にできる人口減少対策」 ・地域が消滅？未来予測の意味 ・地方自治体のＤＸが進まない理由 ・財政措置に振り回されず賢く使え ・行政計画で議員がチェックすべきポイント **①　「あなたの街のデータで確認する人口減少と国の施策」** 講師：　黒瀬　雄大氏 「あなたの街のデータで確認する人口減少と国の施策」		

	所感 今回、黒瀬雄大氏の「あなたの街のデータで確認する人口減少と国の施策」の講義を受講し、人口減少や少子化の問題について国全体の動きだけでなく、自分の住む横手市のデータを確認しながら考えることの重要性を学んだ。横手市の人口は、2020 年の 85,555 人から、国の推計では 2070 年には 28,508 人まで減少すると見込まれている。また、若い世代の市外への転出や出生数の減少も課題となっている。このまま人口減少が進めば、働く人の不足や地域経済の縮小だけでなく、医療、福祉、公共交通など、住民の生活に必要なサービスを維持することも難しくなると考えられる。 第 3 次横手市総合計画では、若者にとって魅力ある仕事づくりや、地域の特色を生かした交流人口の拡大などが重要な課題として示されている。私は、子育て支援の充実だけでなく、若い世代が地元で働き、安心して結婚や子育てができる環境を整えることが大切だと感じた。また、横手市の農業や観光などの地域資源を生かして仕事を増やすことも、若者の定住や地域の活性化につながると考える。講義で特に印象に残ったのは、人口を増やすことだけを目指すのではなく、人口減少を前提として、限られた人材や財源で行政サービスを維持する仕組みを考える必要があるという点である。 横手市でも、デジタル技術を活用した行政の効率化や、近隣自治体との連携、公共施設や交通のあり方の見直しなどを進めることが重要だと思う。また、国の施策や補助金を活用する際には、制度を利用すること自体を目的にするのではなく、横手市が抱える課題を明確にし、その解決につながる事業を選ぶ必要がある。そのためにも、人口の推移や施策の成果をデータで確認し、目標に対してどの程度の効果があったのかを継続的に検証することが大切だと感じた。今回の講義を通して、人口減少対策には、少子化を抑えるための取り組みと、人口が減っても安心して暮らせる地域をつくる取り組みの両方が必要だと学んだ。さらに、施策のＫＰＩ(重要業績評価指標)の設定が具体的に示されているのか、効果・検証について確認する必要があると考える。今後は、横手市の現状や地域の特色を十分に把握し、国の施策を効果的に活用しながら、若い世代から高齢者まで、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりを進めていく

	ことが重要と考える。講義で学んだ内容をこれからの一般質問や議員活動に活かせるように取りくんでいきたい。 **② これから地方にできる人口減少対策** 講師： 黒瀬　雄大氏 所感 はじめに、２０１４年に元岩手県知事の増田寛也氏を中心として作成された「増田レポート」の消滅可能性自治体論は、減少を続ける若年女性人口の予測から導き出された衝撃のデータから始まった。そして、市町村の８９６自治体が消える前に何をすべきか。深刻な課題から講義が始まった。 横手市においても、人口減少や少子高齢化が進む中、これまでと同じ行政サービスや地域の仕組みを、将来にわたって維持していくことは難しくなっていくと感じている。行政の効率化については、限られた人員や予算の中でも、市民に必要なサービスをしっかりと届けられる仕組みづくりが必要で、今ある事業や仕事の進め方を見直し、本当に必要なことに人や予算を使えるようにしていくことが重要だと考える。また、街のコンパクト化についても、中心部に機能を集めるだけではなく、周辺地域で暮らす方々の生活にも目を向ける必要がある。横手市には、それぞれの地域に長い歴史やつながりがあり、そこで暮らす市民の生活がある。地域の良さを大切にしながら、買い物や通院、移動などに困ることのないまちづくりを進めていくことが大切だと考える。 行政のDX化については、デジタル技術を上手に活用することで、市民の手続にかかる負担を減らし、職員の仕事も効率化できる可能性があり、便利になることはもちろんですが、デジタルが苦手な方にも配慮し、誰もが安心して行政サービスを利用できる環境を整えていくことが必要だと思う。チェックポイントとして、「どれだけデジタル化が進んだのか」ではなく、「どれだけ業務のあり方を変えたのか」、さらには、ＤＸは手段であって本当の目的は、職員の減少・役割の多様化、財政制約のなかで住民福祉の増進を果たすことであると学んだ。これからは行政だけで地域を支えるのではなく、地域住民や企業、各種団体など、多くの人たちが力を合わせて地域を支えて協力していくことも重要と感じている。そのために

	は、地域の皆さんに負担をお願いするだけではなく、活動しやすい環境を整え、行政と地域が一緒に考え、取り組んでいける関係を築いていく必要がある。議員として、まちづくりに、何が必要なのか現状を確認し政策提案していきたいと思う。大きな収穫としては、内閣府のＲＡＩＤＡデータ(内閣府地方創生推進室 ビッグデータチーム)の地方創生データ分析評価が閲覧できるようになっている。そのデータから見える人口減少対策を一般質問で取り上げることが出来ると感じた。講師の先生からは、内閣府のＲＥＳＡＳ(地域経済分析システム)も活用することでより具体的に分析が出来る。さらに、ＫＰＩ(重要業績評価指数)をしっかりとチェックすることが重要であることや、新しい地方経済・生活環境創生交付金などを活用すること等を学び大変充実した講義内容だった。

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。